

令和6年12月定例会

令和6年12月17日

市長冒頭発言

本日の議事に入ります前に、貴重なお時間をお借りして、来春に予定されている市長選挙への対応について申し上げます。

私は、7年前に初めて市政の舵取り役を担って以来、今日に至るまで、男鹿の更なる発展を図るには、全ての市民が心を一つにして「オール男鹿」で前に進むことが大切であるとの思いで、市政に臨んでまいりました。

また、職員に対しては、一人ひとりが経営者であり、営業マンであるよう意識改革を促しながら、市民の幸せの実現に向け「利他の精神」で仕事に励むよう求めてまいりました。

こうした基本姿勢の下、二期目においては、コロナ禍や物価高・大雨被害といった目の前の危機に対応しながら、一期目の成果と課題を踏まえ、男鹿の将来の発展に向けた基盤づくりに全力で取り組んでまいりました。

この結果、産業面では、27年ぶりとなる船川港の港湾計画の改訂をはじめ、洋上風力の訓練センターの開設や大型船舶の修繕が可能な船揚場の整備など、船川港の機能強化の動きが本格化したほか、観光面では、念願の男鹿駅前へのホテルの進出や鶴ノ崎地区へのリゾート宿泊施設の立地、男鹿温泉郷等の既存施設の改修による高付加価値化が図られてきております。

また、一期目から継続的に取り組んでいるJR男鹿駅周辺広場は、オガレを含め年々活気あふれる場所となり、若者達が様々な事業を手掛けるなど、まちの変化が顕著になってきております。

農業・水産業の面では、ほ場整備の新規採択や経営の法人化が進展したほか、旧野石小学校を活用したパックご飯工場、本県初となる閉鎖循環方式の陸上養殖事業など、次代をリードする事業が動き出しております。

市民の暮らしの面では、長年の懸案であったジョイフルシティ跡地へのショッピングモールの誘致、斎場の大規模改修に加え、生活に欠くことのできない消防・ゴミ処理・し尿処理について、近隣自治体と広域化の実現に向けて協議を重ねております。

さらに、子育て・教育面では、給食費や保育料、医療費の無償化をはじめ、船越こども園や船越小学校の整備など、子育て環境日本一を目指した施策事業を各般にわたって展開するとともに、小学校、中学校の統合についても、円滑かつ着実に進めてきております。

このように、市議会や市民の皆様のご理解と協力の下、職員と一丸となって取り組んできたことが、具体的な成果として現れてきていると認識しております。一方で、最大の課題である人口減少や少子化対策については、現時点で、まだ思うような成果は得られておりません。

このため、企業の立地や大型の投資案件など、将来につながる新たな動きを、一つひとつしっかりと形にして軌道に乗せ、それを若者や女性の地元定着と回帰につなげることで、少子化や人口減少のスピードを少しでも緩やかなものにしていく必要があります。併せて、人口減少下にあっても、市民が安心して暮らしていけるよう、生活の質を高める取組に力を入れることが重要と考えております。

こうした課題に全身全霊で立ち向かい、ふるさと男鹿の発展の道筋を確かなものにしていくため、引き続き、市政の舵取り役を担わせていただきたいと考え、このたび、3期目に挑戦する決意をいたしました。

議員各位、市民の皆様の御理解を賜りますようお願い申し上げます。